

記者会見資料
令和4年11月2日
総務部秘書課

令和4年『田辺市文化賞』の決定について

田辺市では、昭和45年に創設した「田辺市文化賞」の制度を継承し、毎年、この時期に市の文化（学術、芸術、体育、生活文化等）の発展に貢献された方に本賞を贈り、その功績を称えております。

創設から53回目を迎えた本年は、長年にわたり多くの優れた作品を生み出すとともに、後進の指導に心血を注ぐなど地域の短歌文学の振興に寄与された**石井和子様**と、長年にわたり花いっぱいのみちづくりを通して豊かな心を育むとともに、市民ぐるみのみちづくり活動を精力的に実践するなど地域の市民活動文化の発展に寄与された**古守一晶様**のお二方に本賞をお贈りすることといたしました。

なお、お二方の住所、贈呈式の日時等につきましては下記のとおりです。

記

【受賞者】

いしい かずこ
石井 和子氏（90歳） [短歌]

（西牟婁郡上富田町南紀の台）

こもり かずあき
古守 一晶氏（78歳） [市民活動の実践]

（田辺市新万）

※略歴等については別紙のとおりです。

【贈呈式】

日時：令和4年11月22日（火）午後1時30分～

場所：田辺市役所 4階 第1委員会室



いしい かずこ

石井 和子 氏

生年月日 昭和7年9月13日生

住 所 西牟婁郡上富田町南紀の台

昭和7年、高知県に生まれる。22歳の時、田辺市上屋敷町に転入。現在は西牟婁郡上富田町南紀の台に居を構える。

氏の短歌人生は、当地に移り住んでから始まった。昭和29年、浜実治氏指導の旧制田辺高等女学校出身者を擁する短歌会「弥生会」への特別参加を契機に、毎月の短歌会に参加するようになり、昭和31年には浜氏の串本町転居に伴い、「弥生会」の後任指導者に推挙され、以後20有余年もの長きにわたり指導者を務める。

氏は、昭和35年、角川書店発行短歌誌の二十首詠全国募集で一席に選ばれ、同年、齋藤史氏主宰「原型歌人会」に入会すると、多くの歌友と交流し、昭和37年には「原型賞」を受賞するなど、次々と秀でた作品を紡ぎ出してきた。

短歌への情熱は一切衰えることを知らず、昭和59年には当地域全体の短歌発展のためにと、田辺市中央公民館との共催による「南紀短歌大会」を提唱し、開催に導くとともに、「南紀短歌連盟」を結成。「南紀短歌大会」は本年度で39回を数え、氏はまた、平成18年から現在まで実に16年間にわたり南紀短歌連盟の会長を務めている。

平成2年には、当地域の愛好家らによる短歌結社「登花歌人会」を設立、主宰。田辺市民総合センターを主会場に、毎月の歌会開催は本年で33年目を迎え、これまで延べ百数十人の会員を擁し、年2回の歌誌を出版する会へと発展させている。

加えて、短歌に興味がある人、はじめたい人等入門者への助力も惜しまず、平成3年から田辺市中央公民館主催の短歌教室講師を務めるとともに、平成5年には「短歌サークルしおさい」を設立し、今もなお同会の指導者を務め、また、平成25年から開催している田辺市中央公民館主催の初心者向け短歌教室講師等を通じて、短歌を志す人への門戸を大きく開き続けている。

「登花歌人会」や「短歌サークルしおさい」がこのように長きにわたり運営してこられたのは、氏の卓越した才能と指導力、そして多くの人から慕われるその人柄によることは言うまでもない。

現在も南紀短歌連盟会長のほか、和歌山県歌人クラブ顧問、産経新聞和歌山短歌

選者といった要職を務め、短歌研究社の「300人歌人新作作品集」にその1人として毎年依頼され作品が掲載されるとともに、短歌愛好者の増加・育成に心血を注ぐなど、地域の短歌文学を振興してきた氏の功績は誠に多大である。

(略 歴)

昭和7年 高知県生まれ
昭和29年 田辺市上屋敷町に転入
昭和36年 田辺市上屋敷町から西牟婁郡白浜町に転出
昭和63年 西牟婁郡白浜町から西牟婁郡上富田町に転居

(主な活動等)

昭和29年 短歌会「弥生会」に特別参加 その後、毎月の短歌会に参加
昭和31年 「弥生会」の指導者となり、20有余年にわたり指導者を務める
昭和35年 齋藤史氏主宰「原型歌人会」に入会 後に編集同人として活躍するなど35年間にわたり在籍
昭和59年 「南紀短歌大会」を提唱、開催に導く 「南紀短歌連盟」を結成
平成2年～ 短歌結社「登花歌人会」を設立、主宰 現在に至る
平成3年～ 田辺市中央公民館主催の短歌教室講師に就任（平成5年まで）
平成5年～ 「短歌サークルしおさい」を設立、指導 現在に至る
平成16年 和歌山県歌人クラブ会長に就任するとともに、同クラブの総合歌集『きのくに』を編集出版
平成25年～ 田辺市中央公民館主催の短歌教室で指導 現在に至る
平成29年 南方熊楠翁生誕150周年記念「田辺市熊野短歌大会」で選者を務め、講評を行う
令和3年 第36回国民文化祭・わかやま2021「きのくに短歌の祭典」で選者を務める

(役職等)

平成2年～ 短歌結社「登花歌人会」主宰
平成5年～ 田辺市文化協会 理事（平成28年まで）
平成14年～ 日本歌人クラブ関西地区 委員・選者（平成22年まで）
平成16年～ 和歌山県歌人クラブ 会長（平成17年まで）
平成18年～ 和歌山県歌人クラブ 顧問、南紀短歌連盟 会長
平成20年～ 産経新聞和歌山短歌選者

(受賞歴)

昭和35年 角川書店発行短歌誌の二十首詠全国募集で一席入選
昭和37年 原型歌人会において「原型賞」受賞
平成9年 女性参政権行使50周年記念作文に応募、最優秀賞受賞
他多数受賞

(著書)

『花絡』^{はなづな} 石井和子歌集（雁書館 昭和56年）
『幻有』^{げんう} 石井和子歌集（短歌研究社 平成16年）
『春の円周』 石井和子歌集（銀河書籍 令和3年）



こもり かずあき

古守 一晶 氏

生年月日 昭和19年4月10日生

住 所 田辺市新万

昭和19年、西牟婁郡白浜町に生まれる。高校卒業後、地方銀行に入社し地元の田辺支店に勤務するが、その後退社し、母親が経営する縫製業を継ぐ。

氏の活動の原点は、「ボランティア元年」といわれる平成7年よりもはるか前の昭和58年まで遡る。

氏が居住する田辺市の新万地域は新興住宅地であり、昭和58年当時は空き地も多く、仕事一辺倒の自身の生活に疑問を感じていたことも重なり、空き地に花を植えて地域の環境を少しでも良くし、潤いのある風景を作ろうとの考えから、「自分たちのまちを花いっぱいにしよう」と地域の仲間呼び掛けしたところ、11人が集結し「花つぼみ会」を結成、資金を出し合い、近所の公園や道路沿いの空き地に四季折々の花を植えるボランティア活動を始め、人々の目を楽しませていた。

近所の公園や通学路沿いに花を植える活動は、賛同してくれる人も徐々に増えてきたが、毎週のように花を植える活動には離れていく人もおり、決して順風満帆ではなかった。しかし、「花いっぱい運動」や「花まつり」などのアイデアがこの活動から生まれ、やがて、会員だけに止まらず子供会や老人クラブ、事業所、町内会などがこれらの活動に参加、市民ぐるみの活動に発展し、その活動は、やがて当地域に定着することとなる。

昭和63年、国道42号バイパスの沿道800メートルにコスモス10万本を植える取組で転機が訪れる。広大な面積に花を植えるために、氏の情熱に突き動かされる形で、「花つぼみ会」は市民や市内の企業・団体等に広く参加を呼び掛ける市民参加型の大きな活動へと舵を切った。日本では長らく、「ボランティア」は、それを趣味とするか、ある意味で特別な市民が行うものというイメージが強く、活動には困難を伴ったが、結果として、大きな成果を得ることとなり、この一連の取組により「花いっぱい運動」は市民活動として一気に加速していくこととなった。

以降、同バイパスが完全4車線化される平成11年までこの取組は続き、設立以来の実直な活動により、多くの団体や市民の賛同を得た。この市民活動のうねりをより一層大きな社会活動に発展させるため、平成11年12月、県内で2番目、当地域で

は初めてとなる特定非営利活動法人を設立、活動は現在に至る。

法人化以降も新庄総合公園での市民参加型の公園づくりや学校・子供会・町内会等との「通学路花いっぱい事業」、市内各種団体の要望に応じた花の植栽に関するサポート事業等、まさに市民ぐるみのまちづくり活動を精力的に実践しており、ボランティアも年間延べ2,500人にのぼるなど、こうした長年にわたる数々の活動実績により、これまで多数の表彰を受賞。氏は、現在も、本市の市民活動の第一人者として、令和5年3月に本市で開催される第61回全日本花いっぱい田辺大会の実行委員会副会長を務め、本市における花いっぱい運動を自ら先導するなど、昼夜を問わずまちづくり活動に邁進している。

このように、世間に「協働」や「ボランティア活動」が広く浸透していなかった活動開始当初から、一貫して自らの信念を貫き、本市を拠点として花いっぱいのまちづくりに汗を流し、花のある風景を楽しむ心や周囲の環境を大切にする心を育むなど、花いっぱいのまちづくりを通して市民主体のまちづくりを地道に実践し、地域の市民活動文化を醸成してきた氏の功績は誠に多大である。

(略 歴)

昭和19年 西牟婁郡白浜町生まれ
昭和49年 田辺市新万に転入

(学 歴)

昭和38年 和歌山県立田辺高等学校卒業

(職 歴)

昭和38年 高校卒業後、旧阪和銀行に入社、田辺支店に勤務
昭和45年 旧阪和銀行を退社後、家業の縫製業を継ぐ
平成16年 60歳となった年に縫製業を廃業

(市民活動歴)

昭和58年 「花つぼみ会」発足 公園や道路沿いの空き地に四季折々の花を植えるボランティア活動を始める
平成11年 「特定非営利活動法人 花つぼみ」設立

(役職等)

昭和58年～ 花つぼみ会 会長 (平成11年まで)
平成11年～ 特定非営利活動法人 花つぼみ 理事長
平成18年～ 「日本風景街道 熊野」推進協議会 会長 (令和元年まで)
令和元年～ 「日本風景街道 熊野」推進協議会 顧問
令和2年～ 第61回全日本花いっぱい田辺大会実行委員会 副会長

(受賞歴)

※ 「花つぼみ会」又は「特定非営利活動法人 花つぼみ」として
昭和62年 「花いっぱいコンクール」建設大臣感謝状受賞
平成4年 「緑の愛護功労者」建設大臣感謝状受賞
平成10年 「地域環境美化功績者」環境庁長官賞受賞
平成13年 知事表彰 (ボランティア部門)
平成15年 「緑化推進運動功労者」内閣総理大臣表彰
令和元年 「道路愛護等功労者表彰」国土交通省近畿地方整備局長感謝状受賞
令和3年 「道路功労者表彰」(日本道路協会)

受賞者コメント

石 井 和 子

今秋、私は卒寿を迎え、故郷土佐よりこの地に移り住んで六十有余年になります。

この度は、思いもよらぬ田辺市文化賞受賞のご連絡に驚嘆いたしました。大変有り難くお受けさせて戴きました。この薫り高い文化を擁する田辺市にて短歌を唯一の生き甲斐として、歌にかかわるお仲間とは、この世で逢うべき深い、えにしで結ばれたものと、かりそめならぬ思いで共に研鑽を積んで参りました。今後もこの地の海山の圧倒的な精霊の力を享受しながら、命ある限り努力を続けることが受賞へのお礼と存じて居ります。まことに有り難うございました。

受賞者コメント

古 守 一 晶

この度、田辺市文化賞受賞のご連絡をいただき、私どもで良いのか最初は戸惑い、複雑な気持ちでした。しかし、花を愛する多くの仲間たちの代表としていただくものと思い、ありがたくお受けさせていただくことといたしました。

「花咲かそう！まち咲かそう！人咲かそう！」、花つぼみのスタートは、どんな小さなことでもいい、何かしたいという思いでいっぱいでした。

“一途一心”、多くの人との出会いを重ねながら歩んでまいりました。次から次へと試練は限りなく訪れながらも、多くの皆様のご理解とご協力のもと継続できたことに、改めて感謝の気持ちでいっぱいです。

この受賞を励みに、これからも「花いっぱいのまち 誇れる田辺市」を目指し、一步一步積み重ねてゆくつもりです。

ありがとうございました。

[参考]

田辺市文化賞受賞者一覧

	年	回	氏名	活動内容	住所	備考
1	昭和45年	第1回	故雑賀 貞次郎	地方文化	(故人)	旧田辺市
2	〃	〃	故原 勝四郎	洋画	(故人)	〃
3	〃	〃	故池永 浩	万代記解説	(故人)	〃
4	〃	〃	脇村 義太郎	経済学	(故人)	〃
5	〃	〃	高川 格	囲碁	(故人)	〃
6	〃	〃	早田 卓次	体操	東京都世田谷区	〃
7	昭和46年	第2回	廣畠 鋤和	華道	(故人)	本名 廣畠幾太郎
8	昭和47年	第3回	鈴木 雄三	弓道	(故人)	〃
9	〃	〃	木村 龍平	生活文化	(故人)	〃
10	昭和48年	第4回	山崎 祥石	書道	(故人)	〃
11	〃	〃	益山 英吾	洋画	(故人)	〃
12	昭和49年	第5回	野口 民雄	地方文化	(故人)	〃
13	〃	〃	福本 鯨洋	俳句	(故人)	本名 福本清一郎
14	昭和50年	第6回	森木 啓之	地方文化・邦楽	(故人)	〃
15	昭和51年	第7回	野口 利太郎	地方文化	(故人)	〃
16	〃	〃	坂東 三恵鶴	舞踊	(故人)	本名 高橋つる
17	昭和52年	第8回	中嶋 明	剣道	(故人)	〃
18	〃	〃	小山 周次郎	地方文化	(故人)	〃
19	昭和53年	第9回	前野 忠道	古文書	(故人)	〃
20	〃	〃	玉井 武二	水彩画	(故人)	〃
21	昭和54年	第10回	中井 國之助	生活文化	(故人)	〃
22	〃	〃	辻村 喜一	山藍染	(故人)	〃
23	昭和55年	第11回	赤木 四郎蔵	医療・学校保健	(故人)	〃
24	〃	〃	安部 辨雄	文化財	(故人)	〃
25	昭和56年	第12回	太田 耕二郎	植物学	(故人)	〃
26	昭和57年	第13回	吉田 恒四郎	童話	(故人)	〃
27	昭和58年	第14回	真砂 久一	植物学	(故人)	〃
28	昭和59年	第15回	田ノ岡 鉄一	木版画	(故人)	〃
29	昭和60年	第16回	稗田 一穂	日本画	(故人)	〃
30	〃	〃	曾我部 玄雄	文化財・体育	(故人)	〃
31	昭和61年	第17回	故吉信 英二	社会教育	(故人)	〃
32	〃	〃	原 盾二郎	音楽	田辺市朝日ヶ丘	〃
33	昭和62年	第18回	森内 富三郎	音楽	(故人)	〃
34	昭和63年	第19回	水本 愛堂	書道	(故人)	本名 水本 清
35	平成元年	第20回	辻本 亮三	生活文化	(故人)	〃
36	〃	〃	榎本 はな	生活文化	(故人)	〃
37	平成2年	第21回	吉田 彌左衛門	豆本の出版	(故人)	〃
38	平成3年	第22回	神谷 幸	幼児教育	(故人)	〃
39	平成4年	第23回	南方 文枝	地方文化	(故人)	〃
40	平成5年	第24回	杉中 浩一郎	地方史の研究	(故人)	〃

[参考]

田辺市文化賞受賞者一覧

	年	回	氏名	活動内容	住所	備考	
41	平成6年	第25回	岡安 喜久仕	長唄	(故人)	本名 藤井朝枝	〃
42	平成7年	第26回	外山 八郎	自然保護	(故人)		〃
43	平成8年	第27回	木下 伊吉	生活文化	(故人)		〃
44	〃	〃	脇村 孝三郎	生活文化	(故人)		〃
45	平成9年	第28回	伊勢田 進	考古学	(故人)		〃
46	平成10年	第29回	後藤 伸	生物研究・自然保護	(故人)		〃
47	平成11年	第30回	恵中 三市藏	絵画	(故人)		〃
48	平成12年	第31回	坂東 昌子	舞踊	田辺市中屋敷町	本名 政井昌子	〃
49	平成13年	第32回	寄本 勝美	行政学	(故人)		〃
50	平成14年	第33回	中瀬 喜陽	地方文化	(故人)		〃
51	平成15年	第34回	故鈴木 桂一郎	地方文化	(故人)		〃
52	平成16年	第35回	中田 昌女	華道・茶道	(故人)		〃
53	〃	〃	故小森 陽太郎	社会教育・生活文化	(故人)		〃
54	〃	〃	角 莊三	音楽	田辺市秋津町		〃
55	平成17年	第36回	田上 實	絵画	(故人)		現田辺市
56	〃	〃	宇江 敏勝	作家	田辺市中辺路町野中		〃
57	平成18年	第37回	坂本 勲生	語り部	田辺市本宮町本宮		〃
58	〃	〃	清水 正治	生活文化	(故人)		〃
59	平成19年	第38回	小川 虔道	尺八奏者	(故人)	号:令山(りょうざん)	〃
60	平成20年	第39回	森本 正男	地方史の研究	(故人)	雅号:果無山(かむさん)	〃
61	平成21年	第40回	眞砂 典明	生活文化	(故人)		〃
62	平成22年	第41回	潮 隆雄	染織工芸	(故人)		〃
63	平成23年	第42回	坂本 フジエ	生活文化	(故人)		〃
64	平成24年	第43回	神谷 慧	合唱指導・音楽教育	(故人)		〃
65	平成25年	第44回	玉井 濟夫	生物研究・自然保護	田辺市高雄一丁目		〃
66	〃	〃	故牛尾 武	日本画	(故人)	本名 牛尾武司	〃
67	平成26年	第45回	小板橋 淳	地方文化	田辺市むつみ		〃
68	平成27年	第46回	政井 和子	地方文化	田辺市中屋敷町		〃
69	〃	〃	古久保 健	郷土史研究	田辺市龍神村殿原		〃
70	平成28年	第47回	芝 安雄	伝統工芸	田辺市本宮町皆地	本名 芝 安男	〃
71	平成29年	第48回	酒井 滋子	ひきこもり支援	田辺市本町		〃
72	〃	〃	濱岸 宏一	文化財保護	田辺市学園		〃
73	平成30年	第49回	故池田 千尋	地方史研究	(故人)		〃
74	令和元年	第50回	松本 濱次	伝統芸能	田辺市中辺路町野中		〃
75	令和2年	第51回	五味田 聖二	合気道	田辺市稲成町		〃
76	〃	〃	多屋 朋三	地方史研究	(故人)		〃
77	令和3年	第52回	染谷 文代	読書活動の振興	田辺市上屋敷二丁目		〃
78	〃	〃	安井 理夫	小栗判官物語の研究、 伝承	西牟婁郡白浜町堅田		〃

※昭和45年～平成16年は旧田辺市における受賞者、平成17年以降は現在の田辺市における受賞者

旧田辺市	54
現田辺市	24
合計	78